

2018 展

建設コンサル



17年度は売り上げを若干伸ばすことができそうだ。発注量が安定しているのに加え、高規格幹線道路や鉄道関係の業務が好調なことが要因だ。働き方改革を進めるため、昨

## 中央復建コンサルタンツ

## 兼塚 卓也 社長

年は仕事のやり方を見直して生産性を高めることに重点を置いてきた。

18年度は業績をさらに向上させたい。そのためには技術力競争に勝つ必要がある。今やっている仕事の業務評定点の向上と優良業務表彰の増加に取り組みたい。社内での仕事の回し方についてもモニタリングの強化を図り、生産性の向上につなげていきたい。

国土交通省が進めるi-C Construction関連では、CIM(コンストラク

ション・インフォメーション・モデリング)の活用が本格化するだろう。CIMは設計から施工、維持管理まで一貫した3次元(3D)データを使用する3D設計の技術売り込みたい。AI(人工知能)の活用も模索していく。昨年、社会基盤施設と公共

建築物の健全度評価・維持管理計画業務などの国際規格「ISO55001」の認証

を取得した。地方自治体からの包括維持管理業務の受託など攻めの姿勢で取り組む。PPなど民間活用事業への参入も今後の課題だ。人材確保では、中途採用に加え、毎年15人前後は新卒を採用したい。労働時間の短縮が若手の技術力の低下につながることはないよう、生産性向上とセットで就業環境の改善に取り組んでいく。

## 得意分野生かし受注拡大